# 奏海の杜（かなみもり）について

私たちが目指すのは、「障害があってもなくても誰もが自分らしく暮らせる地域」です。そんな、奏海の杜の活動理念には、3本の柱があります。ひとつは、本人の意欲の向上を図る活動。ふたつは、地域の障害理解を進める活動。みっつは、地域で育てるという教育体制を作る活動です。最後のみっつめの柱が、「かなプロ」です。活動の中で、年齢を重ねるほど、新しいことや外への本人の意識が薄れているのを感じ、いくら環境が整ったとしても、本人にその意思がなければ関係は築くことがでできないと思っています。子どものうちから「支援される人」ではなく「地域で生きる」「地域を創る人」なんだと意識づけること。能動的に主体的に活動したくなる環境づくりを目指しています。特に、大切にしているのは、自己肯定感。個別の特性に配慮しながら安全な失敗をさせる。また、できたところまでをきちんと褒めることで、次への意欲を育てています。障害を知ることで、彼らを特別視しない感覚を広め、障害の有無で分けることなく、みな地域の住民として、できる範囲で支えあえるフラットな関係を創る。奏海の杜は、できることからひとつずつ。子どもたちだけの場所ではなく、地域をつくる、人と人を繋いでいく場として、奏海の杜はありたいと思っています。


特定非営利活動法人　奏海の杜
みんなの広場にこま～る

住所：〒987-0602　宮城県登米市中田町上沼西桜場32番地1
TEL：0220-44-4171　FAX：0220-44-4841
メール：hisaitikouen@yahoo.co.jp　HP：http://kanaminomori.org/


## かなプロの先生を募集しています

1. 奏海の社「にこま～る」の近くに住んでいる方
2. 地域の文化・伝統・芸能、料理などを教えてくれる方
3. 子ども達と一緒に楽しめる方
4. かなプロの参加頻度は先生によって、さまざま

※子どもたちの活動にかかる費用は、奏海の杜が負担します。

あそんだり、まなんだり。

# かなプロ

NPO法人 奏海の杜 みんなの広場にこま～る

# かなプロ って？

## かなプロは、
## 地域で子どもたちを育てる
## 学びの場をつくる活動です。

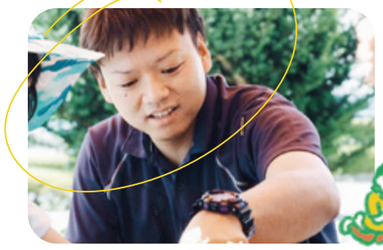
奏海の杜（かなみのもり）の「かな」と奏海の杜に関わるその道の「プロ」を繋げて、スタッフ間で「かなプロ」と呼んでいたのが名前の由来です。現在のかなプロは、農業、芸術、音楽、英語、大道芸の分野から、プロの方々が先生として参加してくださっています。

かなプロの中には、先生の経験がある方もそうでない方も。活動に共通していえるのは、「こうしなくてはいけない」というルールがないことです。奏海の杜の子どもたちはとても人懐っこく、人見知りをあまりしませんが、気分によっては、先生の話を聞かず、自分の好きなことをやってしまうこともしばしば。今思うと、先生たちは戸惑われることもあるかもしれません。それでも、先生たちが、子どもたちに “出来ること”、“出来そうなこと”、“挑戦してみてほしいこと” を準備してくれるおかげで、子どもたちは自分のペースで学ぶことができるのだと実感しています。

また、子どもたちは、様々な分野で活躍する大人たちに出会うことで、たくさんの新しい発見に出会い、自分の出来そうなことが出来ることに変っていく瞬間に出会い、自信を身につけ自ら成長してゆきます。奏海の杜は、障害や困難を抱える子どもたち、奏海スタッフ、かなプロの先生たちに限らず、関わった人がみな、自分の尺度を大切にして、自分らしく参加できる居場所でありたいと願っています。

# かなプロ（せんせい）の先生たち

あんな思い、こんな思い。農業・芸術・音楽・英語・大道芸の先生たちに、かなプロのこと、印象的だった出来事、これからやっていきたいこと、などなどを聞いてみました。



### 農業：にこファーム　すがわらせんせい

奏海の社から徒歩 3 分に、すがわら先生の農園がある。子どもたちは、「これでいいですか?」と聞く子、タネをたくさんまく子、パッケージを作るのが得意な子、それぞれ。すがわら先生は子どもたちの言葉にひとつひとつ丁寧に応えていく。「最初は子どもたちとどう接するか分かりませんでした。でも、とりあえず、やってみることにしたんです。これから、彼らの生きていく場所はたくさんある。適材適所を大人と一緒に見つけて、さらに、新しい働き方のチャンスに出会ってほしいと思ってます」

### 芸術：芸術のもり　ひろこせんせい

子どもたちの自由な表現に刺激を受け、芸術の道に進んだひろこ先生。今の様子からは想像できないが、子どもたちが安心できる時間になったのは、すぐにではなかった。「難しさは日々ありますね。今日はよくできただろうか〜って振り返っています。子どもたちの行動に理解できるところ、できないところがあるんです。だからこそ、自分がどう動けるか。そんなことばかり考えています」。子どもたちにそっと声をかけるひろこ先生の横顔が印象的だった。

### 音楽：ららら♪ミュージック　じゅんこせんせい

子どもたちの行動を、待つことを大事にしているじゅんこ先生。ある日、『ららら♪ミュージックは楽しくない、大嫌い』と不機嫌な子がいた。あえて、じゅんこ先生は、声をかけたりしない。ただ、中に入ることのできる準備はしている。その子は、徐々に輪に近づいていき、最後には輪の中心で積極的に楽しんでいた。「私が帰るとき、その子がにこにこ顔で近づいてきて、『今日は楽しかったです。またにこま〜るに来てくださいです』って。この変化がたまらなく嬉しい」とのこと。

### 英語：えいごであそぼ　アンネせんせい

「いろんな表現方法を学んでほしい。話すことができなくても、リズムで楽しむこともできます。英語に出会うことでいろんな見方が広がるはず!」という思いで始まった英語クラス。ドイツでコミュニケーションや演劇、教育分野を学んでいたアンネ先生は、体の動きを取り入れたり、ゲーム風に取り組んだりと英語の時間はいろんな活動をしている。「子どもたちが少しずつ、私と話すことに自身を持ってきました」と話してくれたアンネ先生。子どもたちは、英語をすこしづつ活き活きと話しており、これからは、にこま〜るのことや日本のことを説明したい様子だそう。

### 大道芸クラス：おてだまーる　みとむせんせい

大道芸人である、みとむ先生。通称「かなみのもりお手玉のじかん『おてだまーる』。お手玉を頭にのっけたり、腕にのせてみたり、ペアになって投げ合ってみたり。個人で、みんなで、体を少しづつ動かしていく。ただ体を動かすのではなく、言語以外のコミュニケーションを通して信頼関係を築いていくのが目的のひとつ。時間はかかるかもしれないけど、地域に向けた子ども達の発表会の場が作れたらなぁと企んでいるそうだ。